

2022年度 札幌市立大学大学院 連携プロジェクト演習 公開成果発表会 プログラム

日時：2022年11月5日（土）14：50～16：30

場所：札幌市立大学桑園キャンパス大学院棟1階 大講義室

開 会 14：50 デザイン研究科長 齊藤雅也

第一部 14：55 2022年度「連携プロジェクト演習」成果発表

グループの成果発表 14：55

プレゼンテーション20分+質疑応答10分=30分間

発表番号	予定時刻	テーマ/発表概要		グループ構成員
1	14:55 ～ 15:25	【テーマ】	積雪寒冷地の避難所における「かまくら」の活用 ～プライバシー空間の確保～	看護学研究科博士前期課程1年 本多 いづみ
		【発表概要】	日本に生活する我々は、様々な大規模災害のリスクに取り囲まれて日々を過ごしている。そのため、避難生活を余儀なくされるということは、決して他人事ではない。しかし、避難所は体育館などに大勢の人が避難することで、プライバシーも日常生活と比較して大きく制限されるため、生活上の心理的・身体的な負担が大きい。札幌市で冬期に地震災害が起きた場合、建物の倒壊や火災の発生、ライフラインの途絶などを想定すると、寒さや風雪などから身を守ることができる場所の確保が必要である。そこで、避難者が多い場合でもより多くの人々が避難でき、少しでもプライバシー空間が確保された環境で過ごすことを目的として、かまくらの活用を提案する。	デザイン研究科博士前期課程1年 堤 晴季 指導教員 鬼塚講師 福田講師
2	15:25 ～ 15:55	【テーマ】	いたみを押し量り表出する機会をつくる遊びの提案	看護学研究科博士前期課程1年 山北 紗静
		【発表概要】	相手の気持ちを理解することは難しい。同じ場面や状況であっても人が感じる気持ちは個人の人生経験や置かれた環境によって異なり、多様化社会により個人の価値観や抱える問題が幅広くなることで、その難しさは増している。特に痛みは、自分と他者とで重みや程度が大きく異なることがあり、他者の痛みを正確に感じることはできない。また、日常の中で他者に表出する機会が少ないことも、相手の痛みを押し量ることを難しくする一因となっていると考える。本プロジェクトでは遊びを通して、相手と自分のいたみや感じ方の違いを経験し、相手の気持ちを楽しく押し量る場を生み出すようなツールを構想し提案する。	デザイン研究科博士前期課程1年 佐々木 舞 指導教員 定廣教授 須之内講師

講評 15：55 看護学研究科長 菊地ひろみ、デザイン研究科長 齊藤雅也、他 担当教員

第一部閉会 16：05

休憩

第二部 16：10 「連携プロジェクト演習後にできること、できたこと（エキシビジョン報告）」

エキシビジョン報告（発表10分、質疑応答5分）

予定時刻	発表概要	グループ構成員
16:10 ～ 16:25	2020年度の連携プロジェクト演習で実施した「浴室での石けんの選択行為と選択に付随した知覚刺激が感情に与える影響」を演習後に学会発表（日本看護科学学会）、原著論文（日本感性工学会論文誌）へと発展させた経緯について報告する。	看護学研究科博士前期課程2年 石黒 未恵、南山 斗志世 指導教員 藤木教授、檜山准教授

閉 会 16：25 看護学研究科長 菊地ひろみ